



一級表装技能士

平田 孝

HIRATA TAKASHI

1963年 柏崎市出身

表具師・経師<sup>きょうし</sup>は書画の掛軸や屏風、襖などを表装する職人。「江戸表具」は平成元年に東京都から伝統工芸品に指定されている。

市内横山にある平田表具店、3代目の平田孝さんは修業先の東京で江戸表具の技術を学び伝統工芸師として40年のキャリアを持つ。赤坂迎賓館、帝国ホテルや数々の著名人の邸宅での仕事を経験、柏崎市内では飯塚邸等の施行・内装工事にも携わった。一級表装技能士の資格を持ち、現在は県表具内装組合の副会長も務めている。

表具師・経師の技術は掛軸、巻物、経本、帖装類から、額、衝立、襖といった美術工芸品が知られている。間仕切りとしての屏風や襖、障子の役割から近世の書院造のように部屋としての機能が生まれ、数寄屋造(茶室造)の壁や天井に和紙を張るという室内装飾が加わった。さらに明治以降の洋風化の流れにより内装や壁、天井の張りといった和洋室内の装飾へと技術が拡大され、現代では内装工事が大きなウエイトを占めるようになっていく。

表装の技術には糊と水と刷毛、そして各種の和紙、織裂が必要になる。平田表

具店の工場を訪ねると棚には多くの和紙が積み、作業場にいくつも置かれた桐たんすの引き出しは表装に使う織裂が収められている。水場に並ぶ30本ほどの刷毛は熊毛や鹿毛、棕櫚など、毛の太さや柔らかさがすべて異なり工程ごとに使い分ける。

和紙は美濃紙(岐阜県)、美栖紙・宇陀紙(奈良県)等々、全国の産地から薄口、厚口といったさまざまな種類の和紙を仕入れ、最低10年ほど寝かせてから使う。表装の糊は専用の正麩糊<sup>しょうぶのり</sup>。平田さんは毎年大寒の頃に糊を煮て手入れをしながら10年寝かし10年経ったものを使用する。

襖の製作では、杉など木の骨材に薄い和紙を順に重ね、いくつもの行程がある下張り後に美しい絵や書、絹などを上張りし、引手を施してようやく完成する。正麩糊で表装された掛軸や襖は年月を経ても本体を傷めず水できれいにはがれるため、古いものであっても修復は可能。気温や湿度による紙の伸び縮みを鑑み、さまざまな材料や道具を自在に使いこなす見識や技術を身に付けて一人前になるには10年以上はかかるという。

平田さんは表装の技術を絶やしたくない、多くの人たちに知ってもらいたいと「江戸唐紙」の技法のひとつ、金銀砂子細工を施した「蒔絵ペーパーコースター」を制作。新潟産業大学とのコラボをきっかけに学生のアイデアと匠の技術を合わせ、伝統工芸の魅力を発信していきたいと新たな試みを始めている。



お問い合わせ

平雅堂 平田表具店  
柏崎市大字横山1136-3  
☎0257-21-9550  
受付時間:9時~18時  
\*年中無休 土・日・祝日も対応可  
<http://www.hiratahyouguten.biz>

